

令和6年度光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和7年2月6日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 構成員

光市長 芳岡 統

光市教育委員会 教育長 伊藤 幸子

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 平岡 いづみ

〃 教育委員 武田 伸治

〃 教育委員 岩佐 光恵

(2) 説明員

部活動改革推進室部活動改革推進係長 宮本 佳典

(3) 関係者

升教育部長、加川教育部次長兼教育総務課長、吉永ひかり学園推進課長、原田学校教育課長兼部活動改革推進室長、田中学校教育課主幹、国広文化・社会教育課長兼人権教育課長、三好スポーツ推進課長、眞嶋図書館長、高橋学校給食センター所長、秋友教育総務課経理係長、奥屋教育開発研究所主任研究員

4 傍聴者

4名

5 次第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

中学校部活動の地域移行について

閉 会

6 議事録（要旨）

開 会

（1）市長あいさつ

それでは、会議の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。本日はお寒いなか、光市総合教育会議にご出席を頂きありがとうございます。

皆様方におかれましては、平素から本市教育行政の推進にご尽力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この度は、私にとって、市長として初めての総合教育会議ということでございますので、どうぞよろしく願いいたします。また、先日の広島県府中市の視察の際に、私の日程も調整ができましたので、視察に同行させていただきました。施設一体型小中一校について、皆様方と同じとき同じ場所で一緒に見る、情報を共有するという大変貴重な機会であり、有意義な時間を過ごすことができたと思っております。ありがとうございました。

本市の教育におきましては、私の公約にも掲げておりますけれども、現在取り組んでおります施設一体型小中一貫ひかり学園の推進、そして、もう1つの大きな柱、本日の議題となっております中学校部活動の地域移行に向けて、皆様方からいろいろなご意見をいただきましたと思っております。

部活動というのは、中学、高校、大学といった中で様々な取組が進められているわけですが、少し調べてもらったところによると、我が国における部活動の歴史におきましては、明治時代に欧米先進諸国から学問や技術とともにスポーツ文化が伝わり、その受入先が学校、特に大学であったことが、運動部活動の始まりであると言われております。学生生活を送る中で、学業とともに部活動が重要な要素となっていることは、私自身の体験として実感しているところですが、現在においては、少子化を背景とした部活動の廃部や活動種目の減少等により、子どもたちの「部活動を通じた自己表現の機会」は、残念ながら限定的なものになってしまっていると感じています。

また、部活動を指導する立場にある教員に関しては、大会運営や引率等の負担に加え、競技経験のない種目を指導することへの負担などが問題提起されてまいりました。

このような中、国は令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間としておりますが、私が教育部長としてお世話になった令和3年度頃もそういった取組の検討が始まっているという中で、大変な時代が来たのだということを強く実感しているところでございます。

こうした中で、しっかりと子どもたちがこの変革に向き合えるよう、皆様方に率直なご意見をいただきたいと思っておりますので、本日はどうぞ最後までよろしくお願いいたします。

(2) 議 事

中学校部活動の地域移行について

内 容：資料、パワーポイントを用いて宮本部活動改革推進室部活動改革推進係長より説明

【質疑、意見等】

(構成員)

ありがとうございました。議事に関する説明が終わりましたが、中学校部活動の地域移行をより良いものにしていくためには、という視点を中心に、委員の皆様方から意見をいただきたいと思っております。

先程の説明にもありましたが、中学校によっては、軟式野球かソフトテニスしか選べない、しかも、野球も試合に出るときは合同チームで、普段の練習で練習試合を組むこともできないという説明でございました。そういった面も踏まえながらご意見をいただけたらと思います。

(構成員)

対象となる部活動も徐々に整備されてきており、光市は比較的順調に進んでいるのだと思います。運用面ですごく気になっていることなのですが、活動場所への移動についても検討されており、費用負担の在り方についても国の有識者会議での検討結果を踏まえて対応していくということ、さらに、経済的に困窮する世帯への支援は確実に措置するというふうにある、これらは当然のことではあると思います。誰もが平等に部活動をすることができる環境を子どもたちに与えていかないといけないと思いますが、こういった支援を実施する際の線引きのところで、保護者の所得制限等を一律に適用すると、ラインよりぎりぎり上に位置する家庭をどうするのかという問題がどうしても出てくると思います。

一定の決まりごとというのは作っていかないとはいませんが、運用面で不公平感が出てくる可能性は当然あると思いますので、これを完全に払拭できるとは思いませんが、例えば、光市内の経済人の方々は、新規採用、特に新卒者の採用にすごく困っている状況があります。ある財団の調査によると、大学に進学する子どもたちの6割くらいが奨学金を利用している状況があり、国は其中で、企業が奨学金を受けた大学生を採用し、奨学金返済を支援することにより税制面で措置する政策を実施しています。

本市においても、例えば、光市の子どもたちを応援したいと考える企業も出てくるのではないかと思いますので、そういったファンドの受け皿というところも広く募集しながら運用していくということも1つの手だと思いました。

(構成員)

ありがとうございます。まさに、企業人ならではのご意見で、企業等との連携といった面も当然検討していかなければならない点でありますし、先ほど説明にもありましたが、地域移行により、やりたい種目を曜日によって経験することができるといったメリットがありますが、それぞれの種目で活動に必要な道具等を揃える必要が出てくることとなり、そのあたりをこれからしっかりと検討していかなければいけないと思います。

(構成員)

1つ質問です。これまで学校行事のときに、例えば文化祭で吹奏楽の演奏や合唱を披露する場がありましたが、今後の学校行事の場での部活動の活躍の場というのはどのように考えておられるのでしょうか。私が思ったのが、以前、室積中学校だったと思いますが、卒業式のときに吹奏楽部が演奏してくださった記憶があるのですが、そういったことは今後なくなるのかと思ひまして質問させていただきます。

(構成員)

今おっしゃった内容については、例えば、地域クラブ活動団体にたまたま1校の生徒だけが所属しているという場合であれば、学校行事への参加ということは当然考えられると思います。委員さんが言われるようなことは、これからやってみて、やりながらどういう運用が可能なのかということ、学校と連携しながら考えていきたいと思っています。大事なことは、子どもたちに披露の場がある、活躍の場があるということだと思いますので、それが学校の中なのか、あるいは市民ホールやスポーツ公園などの学校の外であるのかというのは、多様な選択肢を含めて考えていきたいと思っています。

(構成員)

先ほど、市長の挨拶の中で自己表現という言葉がありました。自分がどうかたちで中学校のときに部活動に取り組んでいたかと考えると、私も3年間運動部に所属しておりました、その頃の部活は、日々の練習で技術を向上させ、試合を勝ち進んで優勝を目指す場所であり、友達と一緒に学ぶ、一緒に好きなことに取り組む場所だったのだと思います。そういった部活動のかたちは、少子化による部員数や部活動数の減少など、時代とともに変容し、今の子どもたちを取り巻く環境は当時とは大きく異なっているのだということが、今回の資料に目を通して改めて感じたことです。

調べてみると、部活動を通じて身に付ける力として、内容知と方法知という言葉が出てきました。知識、スキルとしての内容知と学び方を学ぶ能力、状況を判断する力をつけるという面での方法知というものが、部活動という全学年が同じ1つのものを目指して一緒に取り組む活動を通して学ぶものだったのかもしれないと感じました。

時代によって求めていくものは変わってくると思いますので、今の時代にあったスポーツ

との関わり方、やるスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツなどスポーツの体系も変わってきていますので、大人のほうから考え方を変えていって、こどもたちにより良い放課後の過ごし方や様々な経験の場を創ってあげることが一番必要になっているのだと思いました。

(構成員)

スライドの 25 ページにもあるように、これまで部活動は放課後に実施していましたが、地域クラブ活動の各団体の活動時間は、一部の団体を除き、ほぼ 18 時半から 19 時以降となっています。今までは学校での勉強が終わった後に部活動をしていたことから、こどもたちの放課後の時間の使い方が激変することとなります。

そういった中、光市教育開発研究所でも地域移行後の学校の放課後のあり方というのが 1 つのポイントとなっています。現在、約 30 の地域クラブ活動団体がありますが、全てのこどもの受け皿として十分な数ではないと思いますし、活動費用の点などからも全てのこどもが地域クラブ活動に参加するとは考えにくい中で、1 つの案として、放課後に地域クラブ活動まではいかない準クラブ活動のような形で、学校に居てもいい時間として、例えばボランティア活動やニュースポーツ体験など、地域クラブ活動に参加するまでの放課後の時間で様々な活動に参加できる環境を整備し、こどもたちの将来に向けたスポーツや文化活動ができる時間を提供することで、光市で子育てしたいと思う保護者が増えるかもしれません。

勉強をしてそのまま帰るのではなくて、勉強をした後に気持ちの切り替えをする活動ができる時間というのは間違いなくあると思いますので、ニュースポーツの道具を各校に整備するなどそういったところの支援をしていただけるといいと考えています。

最近が高価な学校の遊具が減っている状況で、ニュースポーツの道具などであればこどもたちはもちろん地域の方も使用することができます。

先ほど市長からもありましたが、施設一体型小中一貫教育において、これから小中学校が一緒になっていったとき、グラウンドで児童生徒が一緒に活動できることも 1 つのポイントかなと思います。中学生が小学生に教える、あるいは地域の方がやって来られるような、そのような放課後の使い方という視点で何か提案できたり支援できたりすれば楽しい学校になるのではないかと感じています。

(構成員)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、地域移行後に指導する立場になられる方は、学校の先生で引き続き希望される方を除き、ほとんどの方は基本的にお仕事を持たれているということから言うと、その多くの方の勤務時間から考えると、先ほどご紹介があったような 18 時からそれ以降の時間ということになります。これまで部活動をしていた時間の使い方を、こどもたちがどう考えるのか、また、部活動が終わって帰った後に学習をしていた時間の使い方が変わってきたときに、こどもたちの部活動があるときの生活スタイルからの変

容というものを見極めていかなければならない重要な課題だと思います。

また、そういった時間に地域の方たちが受入にどのように関わることができるのかということも大切な視点だと思います。

一方で、先ほどソフトテニスの説明の中でもありましたが、現在、学校には照明設備がありませんが、そういった面でいえば、時間帯は遅くなりますけれども、充実した施設で練習時間を確保することができるといった面も出てくると思いますので、様々な面でこれから課題を整理してやっていく必要があると考えています。

(構成員)

委員からは、地域クラブ活動が始まる時間がだいたい 18 時半以降になるという話がありました。現在のところ、37 団体の皆様からご協力・ご登録いただいている状況であり、本当に私ども感謝を申し上げたいと思います。

その上でなんですけれども、やはりお仕事をされていらっしゃる方がほとんどですので、そういう時間帯からの活動になるということ、それから先ほどもありましたが、本市で研究しております光市教育開発研究所の学校運営部会の 1 つのテーマでもあります放課後のあり方で、地域によっては学校が終わってから、あるいは地域クラブ活動が始まるまでのこの隙間時間、16 時 30 分から 18 時までをどうするかということ进行研究している学校もございます。そういった中で、実際にこういう活動ができるんじゃないかというものは少しずつ挙がってきております。

光市では、来年度までを試行期間として考えておりますことから、この試行期間内で、現在、学校が考える、あるいは地域の方、保護者の方とともにということでありましようが、考えていることを少しずつやり始めて、検証していくのが来年度なのではないかと思いますので、いろいろな方のご協力をいただきながら子どもたちの有意義な時間帯というものを創っていきたいと思っております。

(構成員)

ありがとうございました。子どもたちがいろいろな可能性を追求できるように活動団体が増えていくこと、そしてまた先ほど紹介があったような送迎問題であったり指導者の問題であったり様々な課題をクリアしていかなければなりません。

教育委員の皆様方が、家庭や地域の者として、どういったことが市民の皆さんそれぞれの立場から必要となるのか、また、市民の皆様から協力いただくためにどのようなことに取り組んでいけばいいのか、そのあたりについてご意見をいただくと助かります。

(構成員)

活動場所の移動について言えば、「ファミリー・サポート・センター事業」の中で支援を

実施していくとありましたが、地域クラブ活動が始まる18時半から19時頃というのは、おそらく家庭で一番忙しい時間帯で、サポートというのは難しいのではないかと私は考えています。

その中で、田布施町の面白い取組として、定額制の乗合タクシー「のりーね」という月額3,500円で月に最大20回利用できるサービスの運行が始まりました。現在、試行期間中ということですが、面白い取組であり、子どもたちはもちろん年配で車がない方も便利だと思います。金額的にもそんなに高くないと思いますし、こういったものも、地域クラブへの移行に合わせ、市としても何かできることを考える部署があればいいと思いました。

教育委員会だけではなく、逆にそれに乗られるというか、利点を活かして事業化するなど、いろいろな視点で市長部局でもアイデアを募集し、困っていることを教育委員会だけではなく市からも発信してもらい、地域クラブの指導者に限らずそれ以外の面でサポートしていただける方を募るなどの取組ができればいいと思います。

(構成員)

ありがとうございます。「ファミリー・サポート・センター」での送迎支援についても、まさに働かれている時間であったり、帰ってきて一番忙しい時間帯であったりするので、その時間帯でサポートしていただける人を集めるということも大きな課題だと思っておりますので、そのあたりもしっかり考えて取り組んでいきたいと思っています。

(構成員)

最近、「なると」という名前のホームページを見つけ、何かなと思ったのですが廃校を活用したクラフトでした。こういったものも受け皿の1つになるのだと思いましたので、いろいろな視点でいろいろな人が、もしかすると必要なものは整備しないといけないかもしれませんが、こういった取組があるということ発信していくというのもすごく大事なな思いましたのでお伝えしておきます。

(構成員)

活動団体におきましても、いろいろな文化芸術活動、文化伝統の取組であったり昔からいう習い事であったりという分野は、どちらかというところこれまで人づてで始めることが多かったと思いますが、今回のような各団体の活動紹介といったかたちで披露することによって、新たな勧誘活動拡大に繋がるということもあります。今までは知り合いがやっているというだけでの拡がりが多かったのですが、新たな出会いに繋がる可能性もありますので、しっかりと情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

教育長のほうから、逆に地域の方にご協力をお願いしたい、求めているようなことがあればお願いしたいと思っています。

(構成員)

地域の方々に対してということになりますと、本当に様々なお立場の方がいらっしゃいますので、いろいろな面で専門性をお持ちの方もいらっしゃいますし、見守りというところでお手伝いいただく方もいらっしゃいましょうし、先ほどありましたような指導者ではない立場でのサポートができるという方もいらっしゃると思いますので、できるところでご支援をいただければありがたいなというふうに思いますし、この度、現在ご登録いただいている団体さんの中には、これまで部活動になかった種目や部門というものが結構入ってきております。

スポーツで言いますと空手道でありますとか弓道であります、それからその他文化等で言いますと、合唱、短歌、華道、水墨画、写真、詩吟、探究活動、セーリング、野外活動、ボーイスカウト、茶道、手芸、ダンス、フルート、プログラミング、地域貢献活動など部活動の範囲内であつたらできなかったというようなものでございますので、私たちもこういう活動もあるのかというような今まで把握してないものもありますので、是非、地域の方でこれを子どもたちに伝えたい、教えたいというものがありましたら、一報入れていただければありがたいなというふうに思っております。

私どもは何が一番大事かといいますと、やはり子どもたちが充実した時間を過ごし、子どもたちの興味関心が高まり、面白そう、楽しそうだと感じる、自分のためになる、あるいは将来に役立つと感じる、そういう有意義な時間を子どもたちがどれだけ作れるかということを見ていくことが非常に大事だと思っております。

ですから、これまで以上に学校あるいはご家庭にお願いしたいのは、一人ひとりの子どもたちに対するきめ細かな見取りと助言・支援、一人ひとりの子どもたちに対して、この子の放課後の過ごし方、時間の使い方というものはどうだろうかということをしかりと見ていく。例えば、学校によっては教員が面談をやっているという学校もありますし、日々の日記のやりとりというのは、だいたいどの学校でもやっていますから、そういう面でも子どもたちをしかりと見ていき、そして、その気づきを教育委員会が共有し、そして、それを踏まえて、必要であれば仕組みを改善であるとかあり方の見直しというものをやっていくという、これが来年度の試行期間で大事なことではないかなと思っております。

学校のほうでも、そういったところでしかりと一緒に連携して、地域の方々そしてご家庭の皆様方と一緒にやっていきたいというふうに思っております。

(構成員)

ありがとうございます。学校だけでなく、子どもたちを地域でもしかりと育てていく、そういった中で片方だけではなくしかりと連携することで協議しながら、きちんとやっていかなければいけないのだと思いますし、また、こういった連携につきましては、先ほど事務局からの説明もありましたけれども、指導者の質の確保、またはそれぞれのスポーツにお

きましては、競技団体によってあるいは指導者によって目指すところが異なることもあろうかと思しますので、そのあたりも指導者の質の確保というものは、絶えず研修を続けていただけたらというのを期待しております。

私にとって初めての総合教育会議で、こどもを育ててきた者の立場あるいは部活動に参加してきた者として、高校のときの部活動、また大学のときの部活動、そういった者との付き合いというのはかなり太くあります。そういった面では、これまでの自分の成長を支える大きなウェイトを占めるものになりますので、そういった人格形成の一助となるように、この地域クラブ活動への移行に関しても、こどもたちがしっかりと育っていく状況等を大事にして、私からのまとめになってないですけれども、締めさせていただきたいと思います。

午後2時30分終了